

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科:(公民科)科目:(現代社会) 対象:(第3学年A組～F組)

教科・科目の指導目標	社会的事象を理解する上で必要な基礎的知識を習得し、課題への自身の意見を構築し、解決策を考察する力を育む。 現代社会における諸課題を多面的・多角的に考察する力を育てる。
------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 知識・理解 経済分野の得点率の分布に大きな差が見られ、基礎的な知識の定着において個人差が大きく感じられる。</p> <p>2 判断力・表現力 資料から、問いに答えるために必要な情報を抽出することはおおむねできている。 判断力や表現力については個人差が大きく、問いに対して基礎的な理解が不足していると思われる解答が多い。 漢字の誤字脱字が多く、主語と述語がねじれている生徒も多く、文章で表現する上での基本的な技術の習得ができていない生徒が多い。</p>	<p>1 中学社会科での既習事項を前提としつつ、高校段階での現代社会における諸課題を考察していく上で必要不可欠な、基礎的知識および技術の習得に重点をおきつつ指導していく。</p> <p>2 基礎的知識をもとにして、現代社会における諸課題を考察できるよう指導する。また、社会的事象とその背景や展望等も含め、深く理解できるように指導する。</p> <p>3 現代社会の諸課題について、その背景を理解し、解決策を考察できる力を身に付けさせる。</p>	<p>1 単元のはじめに、既習事項の確認を行う。また、授業を展開する中で、生徒の基礎的、基本的知識の理解や定着度合を、発問等で確認しながら進めていく。</p> <p>2 テレビのニュースや新聞記事等を活用しながら、学習内容と関わりのあるテーマを取り上げ、問題の背景および現状を考察し、理解を深められる授業を展開する。</p> <p>3 現代社会の諸課題を考察する力、また、考察した内容を論理的に表現できる力を育成するため、アクティブ・ラーニングを活用して協働的に学ぶ力を育てる。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			